

令和7年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム 共同開催のご挨拶

「地域と国の発展を支え、世界と繋がる国立大学！！」



一般社団法人 国立大学協会
会長 藤井 輝夫（東京大学長）

令和7年度レジリエント社会・地域共創シンポジウムの共同開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

国立大学はすべての都道府県に設置されており、創設以来、世界最高水準の教育研究の実施や多様な学問分野の継承・発展、高等教育の機会均等の確保、グローバル人材の育成、といった役割を日本全体で担っており、法人化以降、各大学で特色ある教育研究や社会連携活動を行うなど個性豊かで魅力ある大学になるよう工夫を凝らし、その成果を社会に還元してまいりました。これからもわが国の発展を支える「知の拠点」として、常にわが国の「知の総和」向上に貢献し、国立大学の活動が各地の皆さまをはじめ世界の一人ひとりのウェルビーイングに繋がっていくよう努力を続けてまいります。皆さまの更なるご理解とご協力、そして力強いご支援を頂けると幸いです。

国立大学協会では、平成23年度から、各国立大学が地域と一体となって実施する防災や災害復旧・復興に関する活動や地域共創によりレジリエントな地域社会を実現していく活動等を支援する目的で、「レジリエント社会・地域共創シンポジウム」を開催しています。こうした場で各地の参加者の皆さまからご意見を伺い、国立大学の防災や災害からの復旧・復興を含めた地域貢献にかかわる教育研究活動の一層の発展に努めるとともに、地域で防災等にかかわる活動をされている住民の方々や地元自治体、様々なセクターの方々により緊密に連携していけるよう努めてまいります。

最後に、本シンポジウムが参加された皆様にとって意義あるものとなりますことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

当協会は平成22年度から「国立大学フェスタ」と銘打ち、10月～11月の2か月間に各国立大学が地域と連携しながら実施するシンポジウムやオープンキャンパス、公開講座、市民講座などの様々な活動を集中的に皆様方に紹介しております。「大学改革シンポジウム」もこの「国立大学フェスタ」の一環として活動を展開することにより、国立大学の今を、地域、社会、産業界等、広く国民の皆様にご理解いただけるよう努めてまいります。